



Wakayama University
Center for Japanology Studies
日本学教育研究センター



第21回学長杯

留学生による JAPANESE SPEECH CONTEST
日本語スピーチコンテスト

2023年度 実施報告

INDEX

1. 「大学生生活を顧みて」
楊 蒼菁 (ヨウ カイセイ)
和歌山大学 交換留学生— 中国
2. 「日本のスーパーマーケットでの体験」
TRAN MAI ANH (チャン マイ アイン)
和歌山大学 交換留学生— ベトナム
3. 「沈黙」
Adya Sharma (アディア シャルマ)
高野山大学 密教学科1年— インド
4. 「海のむこう側— 日本」
王 楠 (オウ ナン)
和歌山大学 交換留学生— 中国
5. 「私の人生を変えた日本語」
Andrew Exon (アンドリュウ エクソン)
和歌山大学 交換留学生— オーストラリア
6. 「空と虹」
Amartuvshin Michidmaa (アマルツブシン ミチドマー)
和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科3年— モンゴル
7. 「人前で話すのが苦手な私は」
Nguyen Phuong Thao (グエン フオン タオ)
和歌山大学 交換留学生— ベトナム
8. 「貧困の女性化」
楊 珍 (ヨウ シン)
和歌山大学 交換留学生— 中国
9. 「知足の心」
Wee Jun Ting (ウィー ジュン ティン)
和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科4年— マレーシア
10. 「不安感と共生する生き方」
陳 安娜 (チン アンナ)
和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生— 中国
11. 「もしみんなが心を読む能力を持ったら」
BUI HONG NHUNG (ブイ ホン ニュン)
和歌山大学 交換留学生— ベトナム

02	入賞レポート
03	学長挨拶
04	講評
06	原稿

入賞

優勝

「人前で話すのが苦手な私は」

Nguyen Phuong Thao (グエン フオン タオ)

和歌山大学 交換留学生/ベトナム



2位 「不安感と共生する生き方」

陳 安娜 (チン アンナ)

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生/中国



3位 「知足の心」

Wee Jun Ting (ウィー ジュン ティン)

和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科 4年/マレーシア



特別賞 「空と虹」

Amartuvshin Michidmaa (アマルツブシン ミチドマー)

和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科 3年/モンゴル



特別賞 「大学生活を顧みて」

楊 薈菁 (ヨウ カイセイ)

和歌山大学 交換留学生/中国

WIXAS 賞 「もしみんなが心を読む能力を持ったら」

BUI HONG NHUNG (ブイ ホン ニュン)

和歌山大学 交換留学生/ベトナム



学長あいさつ

和歌山大学学長 本山 貢



第 21 回和歌山大学学長杯、留学生による日本語スピーチコンテスト」の開催に際し、和歌県内の複数の高等教育機関に留学している多くの留学生が、日本語の習得だけでなく、巧みな表現力を発揮し、今回のスピーチコンテストにご参加いただきました。この場をお借りして、心より歓迎と感謝を申し上げます。

今回の発表には、ベトナム、中国、マレーシア、モンゴル、インド、オーストラリアの 6 か国から、総勢 11 名の留学生が参加されました。彼らの多様なバックグラウンドや視点が、このイベントに特別な輝きを与えています。参加いただいた皆さんに、心より感謝申し上げます。

和歌山大学は、国際化を進める大学として、留学生との交流を非常に重要視しています。異なる国々から集まった多くの皆さんが、日本での生活を母国の生活習慣や文化と比較し、その違いを通して、日本文化を理解し、言語、そして学問に触れ、それぞれの視点から新たな発見をすることができます。留学生の国内での活躍は私たちの国際色豊かなコミュニティをより豊かなものにしていただいております。

このスピーチコンテストでは、留学生の皆さんの言葉が、留学生コミュニティにおいて重要な役割を果たしていくことを期待しています。留学生の経験や視点は、私たちが持つ日本文化への理解を深め、異文化への尊重と理解を促進します。また、これからの国際社会で活躍するためには、異なる言語や文化に対する理解が欠かせません。このコンテストが、その一翼を担ってくれることを期待しています。

留学生の皆さんには、スピーチを通じて自身の考えや経験を表現するだけでなく、異なる文化に触れ合う機会として、他の参加者とも交流していただきたいと思っています。お互いに学び合い、成長し合うことで、より深い友情が芽生えることでしょう。

最後に、皆さんの自信をもってスピーチしてくれたことに改めて感謝いたします。さらに、皆さんの熱き想いを込めた一言一句が、和歌山大学という場所で生まれた新たな友情や協力の一翼を担ってくれることを心から期待しています。

講評

審査委員長 長友 文子

2023年12月16日、第21回学長杯「留学生によるスピーチコンテスト」が開催されました。コロナ禍により、オンライン、ハイブリッドで開催してきましたが、今回は4年ぶりの対面開催となりました。

今回のコンテストには、和歌山大学の他に、和歌山工業高等専門学校、高野山大学からも参加があり、マレーシア、中国、モンゴル、オーストラリア、インド、ベトナム6ヵ国の留学生、計11名が出場してくれました。

参加者の皆さんのスピーチは、日本での体験、日本語を学ぶことで自分の世界観が広がったこと、さらには女性の地位についての深い考察など、レベルの高い内容で、時間がたつのを忘れるほどでした。内容だけでなく、日本語の発音やイントネーション、アイコンタクトや身振りなど、どれをとっても差をつけがたかったというのが、審査員に共通した感想で、順位をつけるのに、大変苦労しました。

今回、入賞され、和歌山大学本山学長から表彰状を授与されたのは、次の方々です。

学長杯に輝いたのは、和歌山大学交換留学生でベトナム出身のグエンフォンタオさん、第二位は、和歌山大学日本語・日本文化研修留学生で中国出身の陳安娜さん、第三位は和歌山工業高等専門学校の留学生でマレーシア出身のウィー ジュンティンさんです。また、特別賞には、和歌山大学交換留学生でモンゴル出身のアマルツブシン ミチドマーさんと和歌山大学交換留学生で中国出身の楊 薈菁さん、WIXAS 賞には、和歌山大学交換留学生でベトナム出身のブイ ホン ニュンさんが選ばれました。入賞された皆さん、おめでとうございます。

優勝されたグエンフォンタオさんのスピーチ「人前で話すのが苦手な私は」には、失敗を乗り越える



過程での気持ちが上手に表現されていました。また、失敗した時に温かく抱きしめてくれたお母さんの描写は、聞いている私たちの心を打ち、そして最後の「人前で話すのが苦手な自分が好きになったかもしれない」という締めくくりの言葉は私たちを笑顔にさせてくれました。スピーチにメリハリがあり、感情のこもった日本語で、大変素晴らしいスピーチでした。

二位の陳安娜さんのスピーチのタイトル「不安感と共生する生き方」には、陳さんの人生観が表れていました。不安のおかげでここまで頑張ってきた、不安があってもいいんだという気持ちになるまでの描写が見事に表現されていました。きれいな日本語と内容にあった表現力で聞いている人をうなずかせるスピーチでした。

三位のウィー ジュンティンのスピーチ「知足の心」から、私たちは学ぶものがありました。人は何かと自分と他人を比べてしまいがちです。他人と比べることで自分がよりよくなればいいのですが、そうではなくストレスがたまることが多いということ、他人と比べるのではなく今の自分に満足する「知足の心」を持つことの大切さを私たちに教えてくれました。聞いている人の心に響くスピーチでした。

特別賞のアマルツブシンミチドマーさんは、最初、

緊張していましたが、だんだん表現力が豊かになり、大変上手なスピーチになって、気が付けば、聴いている私たちはミチドマーさんのスピーチに魅了されていました。タイトル「空と虹」がスピーチの最後の表現「今は、私は自分のことを一つの色で表現できない。一つの色よりも、七つの色をしている虹のほうが美しい」に上手くつながっていて、自分のことを色にとえるというユニークな大変興味深い内容でした。

また、同じく特別賞の楊 蒼菁さんはトップバッターでしたが、大変落ち着いて堂々としていました。タイトル「大学生活を顧みて」は、日本語日本文化がどんどん好きになってゆく楊さんの気持ちの変化が上手に表現されていました。また、言葉を大変丁寧に発音され、きれいで分かりやすい日本語でスピーチされ、表現力も豊かで大変すばらしいスピーチでした。

WIXAS 賞のブイ ホン ニュンさん、最後に見事なスピーチを披露してくださいました。「もしみんなが心を読む能力を持ったら」というテーマから、そのような能力があつたらいいな、という思いを聞く人に与えておきつつも、実は、それが現実になると面白くないことなんだ、という工夫されたストーリーの展開がありました。普段から日本語でのコミュニケーションを大切にしているからこそ、生まれたすばらしい内容でした。

今回出場された皆さんのスピーチは、全員大変レベルが高く、わずかの差で順位が決まってしまうました。入賞された方々も賞を取れなかった方々も、素晴らしいスピーチの内容、上手な日本語と表現力で、私たちを魅了しました。皆さんが、スピーチコンテストに向けて、一生懸命練習されたのかがよく分かりました。やった!という思いも、悔しいという思いも、コンテストに出たからこそ体験できる感情です。その思いを大切にしてほしいと思います。

コンテストでは賞を取ることも大切ですが、でも、コンテストに出ようというそのチャレンジ精神は、もっと大切だと思います。何かにチャレンジするというこ

とは、自分との戦いだと思います。結果よりも、参加したことが今後の自信へと繋がってゆくと私は信じています。今回参加された皆さん、このコンテストに応募してスピーチされた勇気とチャレンジ精神を忘れないで、これからもいろんなことにチャレンジしてってください。

最後になりましたが、ご来場の皆様、ご来賓の皆さま、留学生のスピーチに耳を傾け熱心に聞いて下さり、ありがとうございました。21 回目を迎えたスピーチコンテストは、皆さまのご協力がなければ実現できませんでした。今回のコンテストでのさまざまなスピーチを通して、皆さまに、和歌山で頑張って学び、生活している留学生たちの思いを受け止めていただけたと思います。また、審査員の皆さま、協賛・後援をしてくださった各団体の方々にも、心よりお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

1 大学生活を顧みて

和歌山大学 交換留学生— 中国

楊 薈菁 (ヨウ カイセイ)

私がなぜ日本語の勉強を始めたのかというと、特別な理由はありません。ただ中国の大学入試の総合点数である 600 点の中で、数学が 90 点しか取れなかったからです。「本当に数学が苦手だな! 大学で数学を勉強しなくてもいいなら何でもいいや」と思っていました。そのため、大学進学の際、私が最も意識したのは日本語でした。私の出身校「東北财经大学」の所在地は「中国一の知日都市」と言ってもよいほどの大連です。日本語学習熱が高く、この恵まれた機会をぜひ自分の将来に生かしたかったからです。

「ロマンの都・大連」は、外国人も多い国際都市でありながら、海もある自然豊かな街です。街中には美味しい日本料理店が多いだけではなく、日本文化が至る所に見られ、この町で生まれ育ったのなら、日本語に興味を持たないということはありません。私はこの町で、自分の大学生活の全てを捧げる決心をしました。

とはいえ、日本語の学習を始めたばかりの頃は大変でした。趣味と専攻では全く違うからです。特に文法は中国語と多くの違いがあり悩まされました。またコロナ禍のため、外国語の学習で最も楽しい人と人との交流、つまり、外国人との対面会話は殆ど実現しませんでした。自分の部屋で孤独に、教科書中心の、知識を増やすだけのオンライン授業の毎日、私は大学 1 年生の終了時に専攻を変えようと決意したほどです。しかし「明けない夜はない」という言葉を信じて、耐え続けました。

今年になってやっと中国のコロナは終息し、私は日本料理店でアルバイトをする機会を得ました。店のオーナーは日本人で、日本人客も多く、仕事を通じて多くの日本人と会話する機会が劇的に増えました。教科書では学べない本当の日本の雰囲気を感じました。私は改めて「日本人ともっとコミュニケーションが取れるように、日本語をしっかりと勉強したい」と思いました。そして多くの中国文化と日本文化の違いを発

見しました。例えば、日本人客は食事の前に必ずお絞りを使うが、中国人客は自分でお手洗いで手を洗うのが好きです。日本人客は冷たい水を飲むが、中国人客はお湯を飲むのが好きです。皆さん顔は似ているが、生活習慣はこんなに違っています。その好奇心から、私は「日本に留学したい」、「中国文化と日本文化の違いをもっと研究したい」という夢が生まれました。

その時から私にとって、日本語学習は退屈ではなくなり、毎日真剣に楽しく日本語を勉強しました。最も重要なのは、日本語が好きになって、学ぶ目的ができたことです。私はやっと自分の将来への道が見つけられたと思っています。

日本語の学習は、私の性格にも大きな影響を及ぼしました。会話とは下手でもいいのです。自分から積極的に相手を見つけ、話しかけ、話題を膨らます、といったことこそが大切なのです。その結果、今の私には「積極性」、そして「チャレンジ精神」が身に付きました。今は日本語以外にも、クラブ活動や楽器、ウエイトトレーニングなどで汗をかき、充実した毎日を送っています。

私の大学生活を顧みると、実はほとんどの時間はコロナと一緒に過ごしていました。でもコロナ禍という暗い三年間、暗かった私の大学生活も終わりました。ようやく到来したアフターコロナの日々です。今、私は光栄にも和歌山大学に来て日本語を勉強し、日本文化を肌で感じています。夢と希望に向かって、笑顔で歩み続けたいと考えています。

2 日本のスーパーマーケットでの体験

和歌山大学 交換留学生— ベトナム

TRAN MAI ANH (チャン マイ アイン)

2023年9月から日本で交換留学生としての生活を送り始めました。和歌山大学に通っていますから、和歌山市内に住んでいます。私は和歌山以外にまだ行ったことがなく、自分が住んでいる周りの場所にしか行ったことがありません。その中で、最も気になる場所はスーパーです。私は、買い物依存症でも、お金持ちでもありませんが、スーパーにちゃんと並べられている多くの商品を見ると、楽しく感じるので。日本に来てから三日後、アパートから一番近いスーパー、パームシティに行きました。その中に、100円から買い物できる店である「ダイソー」があって、友達と一緒に入ってみました。

最初はベトナムの1万ドンショップと大体同じだと思いましたが、より詳しく見ると、相違点が見えてきました。

パームシティは家庭用品もたくさん販売しているスーパーですから、様々な商品があります。特に、ベトナムの従来のスーパーマーケットと比べると、衣類ローラー、髪取りシートといった生活を便利にする物がたくさん販売されています。ベトナムでは、それらの物を購入したい場合、専門店に行き購入するか、オンラインアプリでオーダーしなければなりません。

また、日本でスーパーに行くときは、自分のカバンを持っていった方がいいです。スーパーのバッグは、ベトナムでは無料ですが、日本では有料です。これは環境によく、しかもお金を節約することができると思います。

それに、会計を済ませたら、買ったものを自分でカバンに入れるべきです。ベトナムでは、店員が入れてくれます。

私は、スーパーに2, 3回行った後、セルフレジがあることを発見しました。レジカウンターは店員に会計してもらおうカウンターですが、セルフレジカウンターは商品のスキャンから会計までをすべて客が自分で行なうカウンターです。

しかし、私にとって一番印象に残っているのは店員のサービスです。こんなことがありました。友達が黒いランチボックスを買いたいと言っていたのを思い出して、私は店員にそのタイプがまだあるかどうかを確認してほしいと頼みました。彼女は丁寧にお弁当棚まで案内してくれましたが、そのボックスは既に売り切れていました。ですが、彼女は、店に商品が再入荷したときに私が買いに行けるように、私の電話番号、名前、連絡できる時間を保存しておきたいと言いました。それから一週間が経ちましたが、何も連絡がなかったため、彼女は忘れてしまったのではないかと思いました。しかし、ある夜、彼女から電話があり、とても驚きました。「まだ、私を覚えていたの」と思いました。このように、日本では店員がとても親切なので、「ベトナムでも日本と同じようにサービスの質が向上するといいなあ」と考えています。

日本のスーパーに行くことでよい経験ができ、新しい発見ができて、うれしくなりました。このスーパーでの経験は、私の留学生活における素敵な思い出の一つになるでしょう。

3 沈黙

高野山大学 密教学科— インド

Adya Sharma (アディア シャルマ)

私は仏教の本質を学ぶために高野山大学で学んでいます。今回は言葉の本質について考えてみたいと思います。

情報をどこかへ送信する場合、送信中にすこしデータの損失が発生することは、情報技術業界に関わっている人は、よく知っています。書面または口頭で伝えられる情報についても同じことが言えます。

だからこそ、どの宗教でも山のような膨大な知識を入手するより、宗教実践が推奨されるのです。知識を大事にする知識社会で、その知識への適用性がない恐れがあるので、宗教実践を通して、経験で教えを身に着け、理解できるようになるからです。しかし、実践を伴わない知識の追求は、最近の知識社会の特徴です。

沈黙した自然はいつも我々とコミュニケーションしていますが、感覚が鈍くなった最近の人は語彙力磨きの道を走り続け、地球の声はもう聞こえなくなっています。最近世界中で環境問題が重要になっていますが、これもこの鈍さが原因で起きた問題ではないでしょうか。

沈黙を言葉で埋める会話では、言葉を使うほど、言葉が意味をなくし、ただの音になってしまい、コミュニケーションしている訳でもありません。

沈黙の会話では、洞察力と知覚力が求められますので「聞いているけれど、聞いていない」というような会話の問題は起こりません。そこに沈黙の価値があります。

今の知識社会で広がっている「多ければ多いほど良い」という考えの結果が自分の思考に影響していることについて、我々はなかなか気づくことができません。

感覚が鈍い人間は視・聴・嗅・味・触の五つの感覚から入る情報に気付かず、データ処理マシンのように刺激に反応するだけで生きてしまいます。そのため、複雑な因果関係に絡んで、克服できない問題に直面しても、なぜこういう状況に至ったか理解

できなくなります。これは五大環境問題についても言えます。

思考は目の前を通過していく列車のようなものですが、思考で人間の行動がコントロールされますので、思考に影響する感覚情報に気を付けることは非常に重要です。

そういう訳で、どの宗教でも感覚のコントロールが大事にされているのです。

感覚情報と人間の判断の関係を簡単に理解するため、次の練習を連続で3~4日間試してみてください。目で一つの色だけを見て、耳で一つの歌だけを聞いて、単一な味の食事だけを食べて数日後の状況を見て下さい。驚くことに、我々の判断の99%は完全刺激への反応なのです。

このことから、意図せず与えられた感覚データに影響されて人生を生きるより、意識して自分の考えや行動を決めてから生きることの必要性を理解できます。

次に無意味な反応だけの会話を避け、人間らしい思考力を働かせる沈黙を中心とした会話へ進みます。人間の会話は書道のように、文字の黒線より空白の割合が大きいのです。

「活気」というものの働きは、表情、言葉だけに限って考えられますが、ミニマリズムを練習すると、知覚力が上がり、静けさの中でも自分の非物質的な側面を発動させ、活気を見出すことができます。

パソコンでテキストメッセージを編集する時、最も重要な編集ツールは「削除」です。同じように、私たちが感覚を通して入ってくる不必要な影響を排除するためには、沈黙の練習が一番大切です。ほかに、周囲の色の数を減らし、周囲に見えるものを整理して減らし、インターネットの閲覧時間を制限し、可能な限り画像よりもテキストを読み、絵を描くより書の練習をすることも推奨されます。

意識的に生活し、責任を持って生きることは、良い社会と美しい地球を作るのに大いに役立ちます。

3

人間は地球上で最も進化した種であり、思考しない反環境的なライフスタイルにしてはいけません。衝動、本能、環境によってコントロールされる動物とは異なり、人間は自分の行動を意識して決めるために裁量権を持っています。これが人間として生まれる喜びです。意識的に生きる社会を作ることは環境問題の解決にもつながり、今の時代に最も重要な役割です。

4 海のむこうの側（がわ）

和歌山大学 交換留学生— 中国

王 楠 (オウ ナン)

「海の向こうには何がありますか。」

これは、日本の人気アニメ「進撃の巨人」の主人公が言ったセリフです。主人公は世界に興味があり、小さい頃から故郷の海の向こうに何かあるのを知りたいという探究心を持っていました。私も同じく、故郷は中国の北にあり、海外はどのようなところで、他国の人はどのような人かを知りたかったです。そういう考えがあったので、日本語を勉強して、母国を出て、日本に来ました。幼い頃の私は、まだ日本のことを何も知らなかったため、勝手なイメージがありました。日本は非常に忙しく、生活の楽しみがない国で、人々はより冷たいと思い込んでいました。しかし、実際に日本に来てから、特に東京と大阪などの有名な大都市に行ったことで、私の考えが変わりました。日本の経済は発展していて、人々が大きなストレスを感じることもありません。実際に来て、自分自身で経験して、日本での生活は確かに自分の思い込みを変えたと思います。中国の学生はストレスが大きすぎて、いつも疲れていて、授業中に眠ってしまうことがよくありますが、日本の皆さんの目はキラキラと輝いていました。そのことを深く考えさせられたと思います。

次に、私は日本に来たからこそいろいろなところも成長できました。語彙力だけではなく自活力も高めました。日本についての最初の頃は日本語がうまく話せなかったので、空港を出て、道を聞くときはすごく恥ずかしくて怖かったです。寮について、まったく知らない新しい環境になって、友達が一人もいなかった当時の私はすごく寂しかったです。でも授業が始まった後、先生やクラスメートと一緒に勉強しながら、そういう寂しさはすっかりなくなってしまいました。授業後もちゃんと自分で料理を作ったり、部屋の掃除をしたりして、すごく充実した生活を送っています。中国にいた頃はすごく料理が下手だとよく母に言われていましたが今はどんどんうまくなっています。祝日には留学生同士で料理パーティーをやりました。一人

ずつ自分の一番得意な料理を作って、みんなで食べたり、飲んだり、話し合えたりして、すごく楽しかったのも、みんなと出会えて本当に良かったと思っています。

最後に、楽しい事をシェアしたいと思います。日本に来る前、私は日本の伝統や歴史などに深く興味を持っていました。夕顔を詠んだ俳句を詠んだり、『金閣寺』の炎上を読んで悲しんだり、春の桜、秋の紅葉を楽しみにしています。日本に来て、特に和歌山大学のキャンパスでは、このような楽しみはあらゆる場所にあります。文学の授業を通して、先生やクラスメートと古文を研究することができました。大学の図書館で、日本人の友達が文法の問題を丁寧に説明してくれました。休みの日に、大好きな観光名所に行くこともでき、詩や小説で詠まれたことがある美しい景色を見ることができました。……日本での生活はまるで私が風になったように自由で、心が晴れ晴れとしています。

5 私の人生を変えた日本語

和歌山大学 交換留学生 — オーストラリア

Andrew Exon (アンドリュー エクソン)

この発表では、日本語学習が私の人生に大きな変革の力を与え、新たな発見と成長につながったことについてお話したいと思います。私にとって新しい言語である日本語と日本文化を学ぶことは、私の人生に大きな影響がありました。

私が日本語を学び始めた時、日本語が私の人生にこれほど影響を与えるとはまったく思っていませんでした。言葉の学習は、日本語の複雑な文字やリズムミカルな言葉の響きだけでなく、言葉を通して日本文化を理解することにも繋がりました。日本語を学ぶことは、単に単語を覚えたり、文法を習得するだけでなく、日本の伝統と現在の日本が調和し、共存する世界に入るきっかけになりました。日本語の美しさは、その構造だけでなく、敬意や豊かな歴史を重んじる社会を反映し、埋め込まれたものです。

日本語の学習で、私が感じた一番の変化は、世界の捉え方です。日本語というレンズを通して、以前は理解できなかったような微妙なつながりが見えてきました。それは、文化的なニュアンス、礼儀作法の精巧なバランス、他者に対する敬意とのつながりです。日本語学習は、言葉の背後にある、それらの世界観が私の中にも形成され、広い視野と多様性への理解につながったと感ずるようになりました。

実用的な面では、日本語が堪能になったことで、想像もしていなかったような機会への扉が開かれました。日本人と交流すること、さまざまな地域に出かけられるようになったことなど、日本語のコミュニケーション能力の向上は、生活のあらゆる面での機会を増やしてくれました。日本語が様々なものへの架け橋となり、つながりを育み、国境を超えた友情を生み出すツールとなりました。しかし、それ以上に日本語学習という旅は、私自身の忍耐力と適応力を映し出す鏡になりました。新しい言語を習得するという難題を克服するには、努力と忍耐が必要です。私は、この日本語学習のプロセスを通して、自分自身の新たな面を発見できました。

私が言いたいことは、日本語を学ぶことは単なる学問的な探究ではなく、人生を変えるような経験をもたらしたということです。日本語を学ぶことで考え方が形成され、視野が広がり、自分のアイデンティティの重要な一部となった日本文化に触れることができます。この日本語学習という旅は挑戦的であり、やりがいがあり、そして何よりも私自身の変容をもたらすものでした。だから、同じような冒険に乗り出そうと考えている方に言いたいことがあります。知らない事を受け入れ、挑戦を楽しんで、外国語学習で感じる言葉の美しさを知り、私のように人生を変えてほしいです。

ご清聴ありがとうございました

6 空と虹

和歌山工業高等専門学校 生物応用化学科3年 — モンゴル

Amartuvshin Michidmaa (アマルツブシン ミチドマー)

私は青い色だった。空の青い、海の青い。今は、どんな色なのか、分からない。世の中には、知らない色が多すぎて、困っている。

私は小学校から高校を卒業するまで、転校したことがない。ずっと同じ学校で、同じクラスメート、同じ友達がいた。友達は、みんな自分の色で輝いていた。『ミチカは、一緒にいると、穏やかな気持ちを与えてくれる青い色みたいだよ。』と私も言われていた。みんな子供の頃から友達なので、他の人と友達になろうと努力したり、頑張ったりしたことはあまりなかった。学校は、私の2番目の家、心地よい居場所だった。

しかし、ずっと見ていた留学の夢が叶って、日本に来てからこの状態が変わってきた。知らない場所、知らない学校、知らない人たち。まるで、母親から離れた子供のようにだった。新しいクラスメートたちに自己紹介するために、『こんにちは、ミチカと申します。モンゴル人です。趣味はチェスです。よろしくお願ひします。』といった何回練習したのか分からない。それで、授業の初日は緊張しすぎて、『モンゴル人のミチカです。よろしくお願ひします。』しか言えなかった。真っ赤になって、すぐに席に戻ってしまった。その日から、誰かに笑われたり、悪い印象を与えたりするのではないかと心配するようになった。ずっと、頑張って、笑っていた。私の青は色あせてしまった。まるで、何も書いていない白い紙のようになった。こんなことは初めてだったので、焦って、私を受け入れてくれる避難場所を探した。見つけたのは、私の部屋、自分自身だった。私には私だけがいれば、それでいい。

その時、母から電話があった。母は言った。『みんなはミチカから、離れていない。離れようとしているのはミチカの方かもしれないね。逃げようとしている人は、居心地のいい家じゃなく、安心できない仮の家しか見つけられないよ。』と言った。厳しいけれど真実の言葉だった。その日、私は自分に3つのことを約束した。

『一つ、自分が周りから、どう思われているのか心配するのをやめて、できるだけ自分らしくいること。

二つ、家族から離れて、日本に来た目的のため、勇気を出して、できることを全部すること。

三つ、どこへ行っても逃げないで自分のいられる場所を作ること。』これらの単純な三つの約束をしてから、私は心から笑えるようになってきたのだ。

頑張って、みんなと話し始めてから、私が見ていたのは自分だけだったことに気づいた。私は大切な人々を見ていなかった。助けてくれようとしている先輩たち。一人ぼっちにさせないといつも話してくれる人たち。遠いところからずっと応援している人たち。私には大切な人々がたくさんいた。カーテンを開けて暗い部屋に光を入れたようだった。新しい友達のおかげで、私が知らない私に少しずつ気づいてきた。青が薄れて、白くなってしまった紙に、新しくできた友達みんなが別の色を描いてくれた。

皆さんにも、直面するのが怖い物があるかもしれない。でも、一番怖いのは、いつも目の前の物から逃げることだから、目を閉じたままでぶつかっても構わない。ぶつかって後で、目を開けても十分だと思う。後で目を開けたら、前よりいい場所に立っているに違いない。

最後に、今は、私は自分のことを一つの色で表現できない。一つの色よりも、七つの色をしている虹の方が美しい。そう思いませんか。ご清聴ありがとうございました。

7 人前で話すのが苦手な私は

和歌山大学 交換留学生 — ベトナム

NGUYEN PHUONG THAO (グエン フォン タオ)

私は人前で話すのがすごく苦手です。

小学生だった頃は、よくクラスで発表がありました。あるとき、「自分の特技を紹介しよう」という課題で、絵を描くことにしました。ピンクの蓮を描いた作品、私はとても誇りに思いましたが、クラスの前で紹介するときになると全身が震え出し、声も思うように出せなくなりました。それがとんでもなく小さい声だったので

す。発表している子の声が小さくて誰も聞こえないとき、先生はクラスに「〇〇さんが言ったこと、聞こえますか？」と尋ねてきますよね。そうするとクラスメート全員一同が「聞こえませ〜ん」と退屈そうに答え、私にはもうその後失敗感しか残っていませんでした。人前に立たなければならぬたびに、そんなことが毎回繰り返されました。人前で話すのが苦手な私は、周りの人の目の恐ろしさ、そして、自分の中にある恐怖の大きさに驚きました。

高校2年生になって、学校で英語のスピーチコンテストがありました。英語が得意だった私は、「今度は恐れることなくスピーチをしてみよう!」と決意しました。予選は自信をみなぎらせてなんとかスピーチができましたが、セミファイナルは5分間のプレゼンテーション、しかもカメラの前で喋らなければなりません。何テイクも撮りましたが、不安で泣き崩れてしまい、私はまた失敗しました。

普段の私は長女として、常に完璧なイメージを持つことを期待されていました。でもその日、母は尋ねに来ました。落ち込んでいた私はなにも話せませんでした。母はすべてを理解し、私の涙が止まるまで抱きしめてくれました。そのとき、「ありのままの自分でも大丈夫、充分愛されている」ということに気が付きました。人前で話すのが苦手な私は、そうやって家族の温もりをちゃんと感じられるようになりました。

大学生になって、「日越友好に活躍したい」、そんな幼い頃からの夢を抱えていた私は外交学院に入りました。ある日、日本の大使館からゲストスピーカー

が来ました。私はそのトークセッションのMCをやるようにと言われました。「突然のチャンス?突然のチャレンジ?」私はパニックになりました。なぜなら、MCの経験もなかった私に「MCをやって欲しい」「君ならできると思う」とみんなから任せられたからです。少し緊張して、ところどころ小さな間違いもしながらも、トークセッションを何とか無事に終えることができました。人前で話すのが苦手な私でも、自分より自分の能力を信じてくれる人がいるのが初めてわかりました。

みなさんは今までずっと抱え込んでいた不安や恐怖などはありますか。その嫌な感情を体験し続けたからこそ、気付いたことがあるでしょうか。

私は自分の中の怖さよりもちょっと大きな勇氣、そして周りの家族、友達の存在の大切さについてより理解することができました。今は、「人前で話すのが苦手な私」、そんな弱点が少しだけ好きになったのかもかもしれません。

8 貧困の女性化

和歌山大学 交換留学生— 中国

楊 珍 (ヨウ シン)

みなさん、ホームレスと聞いたら、どのようなイメージを頭に浮かべますか。街中であちこちをさまよう40、50代の男性路上生活者の姿ではないでしょうか。それに対して、女性路上生活者の姿はどうですか。これまで、女性路上生活者は社会に見落とされてきました。なぜでしょうか。これまでの男性中心社会では、「男性は仕事、女性は家事・育児」という性別役割分業が行われてきました。家庭で他者のケアの役割を担うことが期待されてきた女性は無職やDVなどが原因で、ホームレスという窮地に陥る現象は注目されにくいです。今日は、ここで、私たちとしっかり繋がっている社会問題である「貧困の女性化」を取り上げ、社会における女性の役割を考えたいと思います。

「貧困の女性化」は米国の社会学者ダイアナピアスが女性の貧困と結び付け、取り上げた課題です。貧困の女性化は年齢層、婚姻状況、地域などの背景要因で、相違が現れています。高齢者、独身者や農村地域の女性は比較的、貧困の状態に陥りやすいです。その背景には、教育、世帯構造、労働市場や雇用システムなどの要因が隠れています。

教育における性別格差が深刻な地域がありますが、特に農村部などの貧しいところでは。男性と比べて、「早婚早産」などが原因で、女性の就学率は低くなります。「家庭の労働力として、家事とか、弟の世話をする責任がある」「女の子だから教育はいらない」、といったマインドセットが教育を受けられないことにつながります。マクロ的な視点から見ると、女性は教育を受けるチャンスが奪われると、バタフライ効果が起こります。女性が分断され、社会の発展、次世代の教育などに影響を与える傾向があります。今は、ウーマン・エコノミー、つまり「女性経済」とも言われる時代です。経済社会全般の向上には、女性の活躍がその鍵となってきます。女性は教育により、貧困の世代間連鎖を打ちきり、三世代の運命を変えることができます。中国では、教育によって、

山奥の女性たちの運命を変えた張桂梅の物語はだれもがよく知っています。張桂梅は全中国初の無料の女子高校を創立しました。創立してから、山奥の女の子たちを2000人ぐらい山から大学に送り出してきました。これらの子供たちは教師、医者、警察など各方面で活躍し、輝きを放っています。他人を頼るのではなく、自分自身の可能性を試すことで、自己実現します。教育にとどまらず、女性が男性と同じように、社会に進出するには、労働市場、雇用体制に見えない差別化によって、中途半端な状況にとどまっています。ジェンダー、年齢の制限で、独立して生計を営む脱家庭化は女性世帯主にとって、さらに厳しくなります。ジェンダー視点から、貧困の女性化に取り組むのはきわめて大切です。

みなさん、世界は女性の声に耳を傾けるべきです。私たちは、生まれてから、自分なりの考えを持っています。世の中には、女性もこの世界の発展を担っています。あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、女性の存在を可視化していきましょう。

9 知足の心

和歌山工業高等専門学校 知能機械工学科 4 年— マレーシア

WEE JUN TING (ウィー ジュン ティン)

なぜ人は自分と他の人とを比べてしまうのでしょうか。

私達は、成長する中で無意識的に自分と他の人とを比べながら育っています。小さい頃、スーパーマンになりたいという夢を持っていた人もいるでしょう。なぜなら、スーパーマンは素晴らしい能力をたくさん持っているからです。人間は他の人と比べて自分が持っていない能力を手に入れたいという欲求があるように思います。鳥のように空を飛びたい、魚のように海を泳ぎたいとか、鳥や魚の能力と自分を比べてしまうことさえあります。

私はとていまして、何よりも身長がもっとほしいです。少なくとも、10センチ。神様にいつもお願いしています。身長を高くするために、頑張ってミルクを飲んだり、運動したり、いろいろな努力をしてきましたが、結局、今、皆さんがごらんになっているように、小っちゃいままです。

人間が自分を他の人と比べてしまう理由は、自分をよりよくするためだとかつての私は信じていました。「他の人ができるなら、なぜ私はできないのか？」と比べることで、モチベーションを高め、さらに努力して、よりよい自分になることができます。しかし、どう頑張っても、勉強はできるようになりましたが、身長を伸ばすことはできませんでした。「どう頑張っても無理なのかな」とストレスがたまり、自信も失いました。「身長はこれ以上無理なので、美人になりたい」と目標を変えて自分の欠点を隠そうともしました。いろいろな動画を見て、メイクの仕方を何度も練習しました。しかし、動画のモデルのようにはなれません。またストレスがたまり、自信を失うという悪いサイクルに戻ってしまいました。しばらくして、ある晩、偶然、一つの動画を見ました。身長を伸ばすための治療や、人工の鼻、人工の顎などの整形手術をしたモデルの話です。この動画を見た時、やっと目が覚めました。半年間、私は何のためにこんなに落ち込んでいたのでしょうか。

そういえば、身長が低い私が、なぜ身長の高い

人になりたいと思ったのかを話していませんでした。周りの人達がいつも私の意見を重視せず、私をガキだとからかっていたからです。背が高くなることができたら、彼らを見返すことができるのと思っていた。しかし、今の私はこんな考えはありません。「何かを失えば何かを得る、何かを得れば何かを失う」という言葉があります。ここだけの話ですが、身長が低いと、水族館とか動物園とかどこにでも子供料金で入ることができます。皆さん、この嬉しさがわかりますか。身長が高い人にはこんな特権は与えられていません。

身長以外でも、私たちは生活の中でいろいろなことを他の人と比べて生きるべきではありません。幸せな人々は、自分が持っていないものではなく、すでに自分が持っているものに目を向けることができます。自分がよりよく生きるためには、自分の今の境遇に満足するという「知足の心」を持ち、他の人との無駄な比較を避けることが大切です。私は今、この身長に満足しています。たとえこれ以上伸びなくても、縮まなかったら、それでいいのです。

10 「不安感と共生する生き方」

和歌山大学 日本語・日本文化研修留学生— 中国

陳 安娜 (チン アンナ)

皆さん、「相手があなただから安心だ」「やっぱりあなたに頼んでよかった」という言葉を言われたら、嬉しいと思いますか。他人に高く評価される、信頼されることは嬉しいことですよね。でも私の場合はそういう時は嬉しくなく、逆に怖くなります。それは自分が強くない、いつかみんなを失望させるという不安を持っているからです。自分も失望させないように必死に頑張らなきゃ、とっていました。そして、いつの間にか不安感があちこちに溢れてきました。例えば、「明日は小テストがある」ということだけで、私は怖くてたまらなかつたです。夜遅くまで何度も何度も暗唱を繰り返して、最終的には、心身とも不調になり、泣きながら嘔吐したこともあります。こういう些細なことだけで泣いたり吐いたりするのは大げさだと思う人がいるかもしれません。でも当時の私にとって、もし小テストすら満点がとれなかつたら、本当の自分がばれてしまうのではないかと不安に思っていました。周りの人からは「人の目を気にしないで、自分の心に従って」「不安がらずに自信をもって」とアドバイスされましたけど、やっぱりちょっと違うかなと思っていました。私が不安に思うのは、他人の評価や見方に対してでしょうか。そもそも不安感はそのような悪いものでしょうか。

毎日不安を抱え生活していたある日、留学という道が目の前に現れました。将来について先生と相談したとき、ようやく自分の本当の課題について気がつきました。それは、どんなに満点をとっても、人生を振り返り、歩んでいける力や経験がないということです。結局、これまでの人生や、将来について深く考えることもなく、不安ばかりで、人生において大事なことは何一つ見つけられなかつたといっても言い過ぎではありません。なるほど、不安に思っていたのは、他人の評価ではなく、理想的な自分しか受け入れられず、本当の自分に直面するのが怖かつたからだと気がつきました。

日本に来てからもう二ヶ月になりました。最初の授

業で、「日本に来て、今までと全く違う自分が発見できるかもしれませんよ」って、先生に言われました。でも、そのとき自分が変わることについてまったく想像ができませんでした。この二ヶ月の間、みんなと一緒に旅行して、イベントに参加して、今までの体験にはない、数多くの美しい光景を目にし、様々な経験をしてきました。日本での出会いは、素晴らしい思い出になり、私の将来の青写真も描けるようになってきました。

実は、今スピーチする自分もまだ不安感持っていますが、もうそれをなくそうとは思っていません。不安感があるおかげで、自分も一生懸命に頑張っていて、そしてこのようにここで立てたのも事実ですから。また、人生もより豊かになると思っていますから。

人によって、自分の抱える問題への解き方は違います。不安の解消方法も人によって違うでしょう。でも私がこれまでの経験で気づいたことは不安があってもいいということです。それは不安も人生経験の一部だということがわかつたからです。

私は強い人間ではありません。自分が思い描く理想的な自分になるためには、不安があってもいいのです。それが普通の人間だと、ようやく堂々と言えるように、今の自分を認められるようになりました。私みたいに、不安だらけの人間でもいいんですよ。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

11 「もしみんなが心を読む能力を持ったら」

和歌山大学 交換留学生— ベトナム

BUI HONG NHUNG (ブイ ホン ニュン)

心を読む能力とは、通常の会話やコミュニケーションなどを行わずに、相手の思考を読み取り、相手が何を考えているのかを完全に把握する能力です。確かに、その能力を持つと、なぜ相手がそのようなことを言ったのか、なぜ相手がそれをするのかという悩みがなくなるのではないのでしょうか。相手の気持ちを読み取ることが得意ではない私は、「心を読む能力を持ったらいいな」とか、「その能力があると人生がうまくいく人になれるかな」と考えたことがあります。けれども、友人からは「相手の心を読まない方がいいことがあるよ」とも言われます。

もしみんなが相手の心を読むことができるようになれば、その人の気持ちを察する必要がありませんので、誤解したり、されたり、あるいは不快な思いをさせたり、されたりするような人との軋轢が発生する場面は少なくなるでしょう。また、心を読む能力が存在する世界では、人間はウソをつくことができず、いつも素直に話さざるを得ないのです。嘘のない世界、コミュニケーション不足による喧嘩や別れの無い世界はより住み心地がよくなる世界でしょうか。

一つ確実に言えるのは、心を読む能力がある世界は秘密のない世界で、つまらない世界だ、ということです。コミュニケーションは人生において不可欠なものです。もし心を読む能力を持っているとしたら、コミュニケーションの存在価値が失われる可能性があります。そして、嘘はつかないほうがいと、普通は言われますが、嘘の中には、相手を傷つけたくないから嘘をつくという場合もあります。そのような嘘も悪いことなのでしょうか。

先日、日本人は話す時、いつも相手の気持ちを考えてながら話しますので、曖昧な表現や自分の行為を恩に着せない言い方が多くあるということを教科書で読んだことがあります。しかし、みんなが心を読む能力を持てば、日本人の心遣いの意味や日本語の美しさはなくなってしまうでしょう。また、他人の心を読むことは興味深いかもしれませんが、それは相手

も自分の心を読むことができるということです。それを知ったら、おそらく嫌な感じがするでしょう。それに、相手に心を読まれるという怖さにより、自分の秘密を守るために、人間は何も考えたくない、誰とも話したくないという考えが出てくる可能性があるでしょう。存在していても何も考えない人は、はたして人と言えるのでしょうか?実は、私はこの質問にすぐに答えられません。

心を読む能力は確かに魅力のある能力ですが、その能力を持って生きるのは何と難しいことでしょう。時々、言葉やコミュニケーションの複雑さにより、私たちは相手の気持ちを完全に理解できず、喧嘩したり、誤解したりすることがありますが、それもまた人生の一側面であると私は思います。心を読む能力がなくても、私たちは時間をかけて話し合うこと、相手との関係を深めることができます。それにより、恋も生まれます。ありのままの自分で最大限に生きることができたら、人生はより美しくなる。私はそのように思うのです。

ご清聴ありがとうございました。



本コンテストの開催にあたりましては、ご後援いただきました機関の方々、地域の方々からご協力、ご支援をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第21回 学長杯留学生による
日本語
スピーチコンテスト
JAPANESE SPEECH CONTEST



出場者募集!

2023年
12月16日(土)
13:00~15:30 (受付開始12:30)

● エントリー締切 / 10月27日(金) 17:00

参加希望者はエントリーフォームから、
申し込みをしてください ▶▶▶



● 原稿提出締切 / 11月24日(金) 17:00

開催場所 和歌山大学 東1号館 E1-102教室 (和歌山市栄谷930番地)

[主催・お問い合わせ] 国立大学法人和歌山大学
国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>
TEL.073-457-7524 / Mail kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp

[後援] 和歌山県 / 和歌山市 / (公財) 和歌山県国際交流協会 / NPO法人WINコンコード / 国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川 / 高野山大学 / 和歌山工業高等専門学校 / 和歌山YMCA国際福祉専門学校

WAKAYAMA UNIVERSITY CAMPUS MAP

開催場所 和歌山大学 東1号館 E1-102教室

第21回学長杯留学生による

日本語 JAPANESE SPEECH CONTEST スピーチコンテスト

●出場資格

和歌山県内の高等教育機関、専門学校または日本語学校に在籍する、日本語を母語としない18歳以上の留学生。

●募集人数

12名 ※応募者多数の場合は、各校に選出していただくことがあります。

●演 題

内容は自由。制限時間5分以内(1,200~1,500字程度)但し、応募できるのは他の大会等に提出していない未発表の作品に限ります。

●エントリー締切

10月27日(金)17:00

参加希望者はエントリーフォームから、申し込みをしてください▶▶▶



●原稿提出締切

11月24日(金)17:00

原稿はword形式で作成し、メール添付で下記アドレスにお送りください。

kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp 和歌山大学国際交流課

※提出後の原稿修正、差し替えはできませんので、ご了承ください。

●審査基準

審査員による採点 (1)内容…印象に残ったもの、興味深い内容、など【5点】
合計20点 (2)構成力…一貫性があるかなど【5点】
(3)日本語…語彙、文法、発音、イントネーションなど【5点】
(4)表現力…アイコンタクト、身ぶり、声の調子など【5点】

※制限時間(4分45秒~5分15秒)に対する過不足は、以下の点数を審査合計点から減点する。
⇒過不足10秒ごとに【-1点】

●入 賞

優勝/2位/3位/特別賞/WIXAS賞…各1名

入賞者には図書カードが贈呈されます。

優勝 10,000円分/第2位 5,000円分/第3位 3,000円分/特別賞 2,000円分/WIXAS賞 2,000円分
NPO法人WINコンコード様より、出場者全員に奨励賞(QUOカード2,000円分)が贈呈されます。

[主催・お問い合わせ]

国立大学法人和歌山大学
国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>

TEL.073-457-7524 / Mail kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp

[後援] 和歌山県/和歌山市/(公財)和歌山県国際交流協会/NPO法人WINコンコード/国際ソロブチミスト和歌山紀ノ川/高野山大学/和歌山工業高等専門学校/和歌山YMCA国際福祉専門学校